

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 大台町立宮川小学校 (※正式名称を記載)  
種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他 (例：小中高一貫 )

所在地 〒 5 1 9 - 2 5 1 4  
三重県多気郡大台町茂原 5 4 3 - 3  
E-mail miyasyo@ma.mctv.ne.jp  
Website \_\_\_\_\_

幼児児童生徒数 男子 37 名 女子 43 名 合計 80 名  
幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

## 2. 報告期間

平成 2 9 年 4 月～平成 3 0 年 3 月

## 3. 活動内容

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

本校では、総合的な学習の時間や各教科、道徳などの授業を中心に地域に根ざした「自然環境教育」を実施している。地域の自然環境を自分たちの手で守り育てていくことで、身近な地域の環境だけでなく、これからの地球の環境を考え、持続可能な社会の構築につなげていくことを目標としている。

各学年の発達段階に応じ、次のようなねらいをもって教育活動を展開することとしている。

- (1) 身近な自然についての知識や理解を深める。
- (2) 郷土を愛する態度を育成する。
- (3) 自然環境を保全する態度を育成する。
- (4) 自然との多様な関わりに気付き、自然保護に関する価値観を形成する。
- (5) 自然や地域資源を活用する価値観を形成する。

具体的には、①「全校美化活動」、②「環境整備活動」、③「自然とのふれあい学習」、④「山の学習」等を実施した。

- ① 全校美化活動（全学年、6月、1時間、学級活動）  
 全校児童が縦割り班に分かれ、地域の高等学校（昴学園高校）と連携して、自分たちが住む町のゴミ拾いを行い、自分たちが住んでいる地域を大切にすることを育てるとともに、自らの手で進んで自然を大事にする態度を育成する。
- ② 環境整備活動（全学年、通年給食時）  
 学校給食で使用したあとの自分の食器を布でふく活動を通して、排泄浄化の取り組みについて理解し、河川保護の意識を高める。
- ③ 自然とのふれあい学習  
 （3年生、4～9月、10時間、理科・総合的な学習の時間）  
 郷土を流れる「宮川」に出かけ、川の流れや生き物を観察することで、この地域特有の自然を知る。また、それらの自然を大切にすることを育成する。
- ④ 山の学習  
 （4～6年生、6～10月、各学年2～3時間、総合的な学習の時間）  
 地域に根ざした特色ある教育活動の1つである。「山の学習」と称して、4年生では、年間約35時間取り組む。学校林など地域の山に出かけ、生育具合を観察したり、間伐材の切り出しや加工、木材市場での販売までを体験的に学習する。この活動を年間通して行うことで、木の循環について理解を深める。また、学習で学んだことをまとめて、本校の学習発表会の場でプレゼンしたり、メディア（ケーブルテレビ放送等）を使って、町内外に情報発信したりする。5年生では、4年生での学びの発展として、森のしくみや植樹の方法について学んだり、植樹体験を行うことで、自然保護に関する価値観を形成する。6年生では、植樹した樹木をモニタリングし、木の成長についてさらに学習を深める。



① の写真（昴学園とのゴミ拾い）



③ の写真（宮川ダム見学）



④ の写真（間伐体験）



④ の写真（木材市場での販売）

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

#### ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input checked="" type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながり尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

書籍「本当はすごい 森の話」田中惣次著 少年写真新聞社刊 『校庭の雑草観察便利帳 ふしぎが楽しい』 岩槻秀明著、いかだ社、2011年  <a href="http://www.mec.or.jp/ondan/">http://www.mec.or.jp/ondan/</a> (三重県地球温暖化防止活動推進センター) <a href="http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/MieMu/">http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/MieMu/</a> (三重県総合博物館) <a href="http://kids.yahoo.co.jp/">http://kids.yahoo.co.jp/</a> (yahoo!きっず)
---

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

「総合的な学習の時間」を中心に教科や特別活動の年間指導計画に位置づけている。例えば、前出の「山の学習」については、4～6年生「総合的な学習」の時間に位置づけており、4年生は35時間、5年は2時間、6年は4時間の学習時間を充てることとしており、その指導内容も定めている。また、課題解決型の学習過程を重視して毎時の指導計画を立てている。

具体例 4年…通年「山の学習」（自然林と人工林の観察、間伐、搬出、木材市場での販売など）

5年…「植樹体験」

6年…「植樹した木のモニタリング活動」

活動内容の計画・推進に際しては、NPO 法人「大杉谷自然学校」や「宮川森林組合」と連携を図り、その指導や支援をうけて、実施している。

新年度の実施に当たっては、上記関係機関等と連絡調整をおこなうとともに指導方法や内容について工夫改善を図ることとしている。

上記以外の活動についても、年間指導計画に位置づけて実施している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

よりよい活動を創出するために、各活動後には、児童の振り返りとともに指導者等による総括を行う。年度末には取組の成果・課題について、全職員で確認するとともに、次年度に向けて工夫・改善すべき事を記録し、本校の研究紀要に記載している。

新年度の実施に当たっては、申し送りを受けて、年間計画の立案を十分検討している。それに基づいて、事前に校内外の関係者で調整をし、準備を進めている。

また、具体的な活動に際しても、関係者で連携を図り、ねらいが十分達成できるように実施している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

(1) 児童による評価

感想シート、振り返りシートを用いて、事後に児童による評価を行う。これにより、活動に対する取組姿勢・態度、意欲、理解度、成果や課題をつかむ。

(2) 教職員による評価

・各活動後に、指導者による総括を行う。活動内容に応じて関係者も交えて行う。

・年度末には取組の成果・課題について、全職員で確認するとともに、次年度に向けて工夫・改善すべき事を記録し、本校の研究紀要に記載している。

・「教職員自己評価」の評価項目の一つに位置づけ、全職員による「活動全体としての評価」を行う。

(3) 保護者による評価

・「保護者アンケート」の評価項目の一つに位置づけ、保護者による評価を受ける。

地域に根ざした自然環境学習は、児童、保護者、教職員、地域住民から高評価を得ており、今後も継続・発展させることが期待されている。

地域の自然や環境について、いっそう主体的に考え、課題解決を図っていく実践力を養っていくことがますます求められている。

⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

○本年度、11月に実施した「学習発表会」における活動発表

保護者や関係者、地域住民を対象に4年生が学んできた「山の学習」について、活動内容やわかったこと、感想等をステージ発表した。

発表する児童自身が活動を振り返り、総括し、成果や課題をスライドで報告できたことは、児童自身の学びを深めるとともに、保護者等参観者の関心や理解を深めることに有益であった。

○「全国学校の森子どもサミット」への参加

毎年、学校林を有する学校(全国約10校程度)が参加して行われている「森林環境教育」を主テーマとする子どもサミットに5年生が参加した。

児童は「山の学習」等による学習成果をプレゼン発表したり、森林の中での共同学習を行ったり、意見交換会に参加したりした。

2泊3日の交流と相互発信の機会は、児童の学びをより深め、環境保全や郷土愛の意識を高める得がたい経験となった。

○「学校だより」、「ケーブルテレビ」、「新聞社」等による活動紹介

子どもたちがおこなう自然体験学習を広報誌やメディア等で紹介することで、児童の意欲の高まりと保護者・地域住民の関心・理解を深めること等ができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）  
（200字程度）

・NPO 法人「大杉谷自然学校」や「宮川森林組合」等と密接に連携し、指導や支援を受けて、様々な自然環境学習を実践した。

・三重大学ユネスコスクール担当と連携を図り、本校児童が三重大学の環境ポスターコンクールに応募したり、本校の実践を三重大学のユネスコスクール研修会に寄稿したりした。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

・町内のユネスコスクール認定申請中の学校とは、共通した取組「山の学習」に関して交流したいと考えている。

・生物多様性をテーマに取り組んでいる滋賀県の学校とは、テレビ会議システムを利用した交流学习を検討している。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

・「全国学校の森子どもサミット」に参加した児童について

「山の学習」を中心に、身の回りの自然環境について学習をした児童が、全国子どもサミットに参加し、学んだことを発信したり、意見交換したり、交流したりした経験は、ポジティブな変化につながった。子どもたちには自信と意欲、郷土愛の醸成や、環境保全の意識高揚が見られた。

中には、夏休みに、林業に関する書籍を読み、地域の森林環境の保全を自らの使命とする読書感想文を書き、地区最優秀の表彰を受けた児童もいる。

・保護者の理解の促進

学校の実践内容について理解を深めた保護者が増え、保護者アンケートの中で、「地域の人や自然環境に関わる学習活動」への評価が他のどの項目より高評価となっている。

(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

・地域の方々と交流し、人々や地域のよさ、自然環境の大切さ等を学ぶことで郷土を愛する心情を育てると共に、自然環境をいつまでも大切にできる児童の育成を図る。

①環境整備活動1(全学年、6月、1時間、学級活動)

縦割り班に分かれ、地域の高等学校と連携して、自分たちが住む町のゴミ拾いを行い、自分たちが住んでいる地域を大切にすることを育てるとともに、自らの手で進んで自然を大事にする態度を育成する。

②環境整備活動2(全学年、通年給食時)

学校給食の食器を布でふく活動を通して、排泄浄化の取り組みについて理解し、実施する。

③環境整備活動3(4~6年生の環境委員、委員会活動)

校区全域から回収したアルミ缶やエコキャップ等を分類、整理することで、循環型社会に参画する態度を育成する。

④身近な自然とのふれあい1(1~2年生、4~6月、4時間、生活科)

学校周辺にある川で生き物探しを行い、身近な生き物について興味・関心を持つ。

⑤身近な自然とのふれあい2(3年生、4~9月、10時間、理科・総合的な学習の時間)

川の流れや生き物を観察することで、この地域特有の自然を知る。また、それらの自然を大切にすることを育成する。

⑥身近な自然とのふれあい3(1~3年生、4~7月、6時間、生活科・総合的な学習の時間)

子ども達が共同で地域の農作物を育て、育てた農作物を観察したり、調理して味わったりすることで、地域の農作物についての知識を深める。

⑦身近な自然とのふれあい4(1~2年生、6月、2時間、生活科)

地域に自生する植物を使い、昔から作られてきた山帰来だんご(※)の作り方を地域住民に教えてもらい、それを食すことで、自然の豊かさに感謝し、自然環境を保護する気持ちを育成する。

⑧自然循環機能の学習1(4年生、4~5月、10時間、社会科)

家庭から出るゴミについて調べ学習し、それらのゴミが集積される施設を見学する。また、ゴミの分別やリサイクルについての学習を深める。

⑨自然循環機能の学習2(4~5年生、6月、4時間、社会科)

水の学習として、4年生では、自分たちが普段口にする飲料水について学習し、浄水場を見学する。

⑩自然循環機能の学習3(4年生~6年生、総合的な学習の時間)

身近な森を観察し、森の特徴について学習するほか、間伐体験や木材市場の見学等を通して、森の手入れの仕方を学び、自然環境を保全する態度を育成する。

・4年…山の学習

(自然林と人工林の観察、間伐、搬出、木材市場での販売)

・5年…植樹体験

・6年…植樹した木のモニタリング活動